

# 政治改革と原因を関連づけ、評価しよう

## — 天保の改革は妥当であったか —

兵庫教育大学 准教授 山内敏男

### 1 はじめに

歴史的分野の授業で政治を学習のメインにする場合におちいりがちなのが、政策を羅列・集積する活動にとどまってしまうということです。生徒の知的な好奇心を喚起するためにも、関連づけや意味づけができる授業の“しかけ”を用意したいものです。

そこで本稿では、水野忠邦による天保の改革を事例に、主体性をうながす活動により、歴史的な見方・考え方の「背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関わる視点」\*を学習に取りこみ、政策と、政策が実施された原因とを関連づけ、その影響を類推することにより、政策の妥当性を評価する学習を提案します。

### 2 授業の展開

#### 【活動1】改革の目的を明確化する

導入では、天保の改革の前提として、水野は何をめざして改革を行ったのかを問います。

「社会の安定化と幕府の強化をめざして改革

を始め」たことは『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.149に書かれています。ここでより下げたいのは、「なぜ、社会の安定化、幕府の強化が必要なのか」という点です。この課題を考えさせるためには、教科書本文の読み取りのほかに、当時の状況を可視化できる資料（図）を活用するとよいでしょう。資料を読み取り思考（内化）したのちに、改革の必然性を説明（外化）するALが設定できます。生徒は、「外国船の来航に対応するため」、「天保のききんにより一揆が多発し、社会が不安定になってきたから」といった説明をするでしょう。

#### 【活動2】政策を列挙する

教科書p.149の記述からは次の政策を読み取ることができます。

#### 天保の改革のおもな政策

- ① 株仲間を解散させる
- ② 出版を統制する
- ③ ぜいたくを禁止する
- ④ 江戸に出ている農民を村に帰らせる
- ⑤ 江戸・大阪周辺の大名領などを幕領にする
- ⑥ 薪水給与令を出して外国（船）に対応する

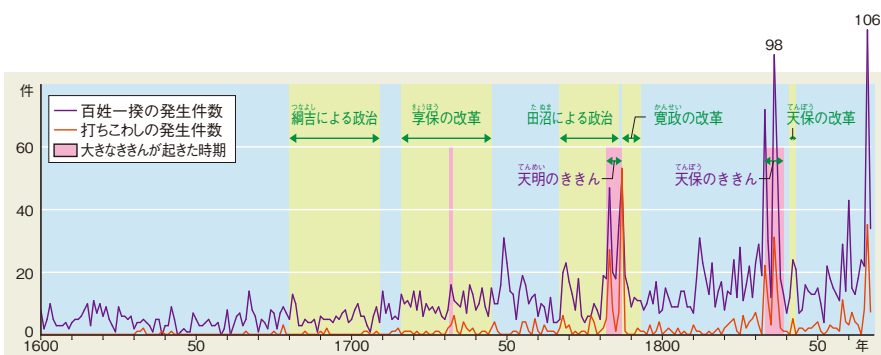


図 『社会科 中学生の歴史』 p.128 「②百姓一揆と打ちこわしの発生件数」

グループ活動として取り組んでみるのも良いでしょう。その際、読み取った政策は付箋やフラッシュカードに書きこみ、ホワイトボードなどに貼りつけます。並べかえが容易にできるものを書きこむことで、原因と関連づける活動の際に効果を発揮します。

#### 資料1 老中 水野の命令その1

風紀を正し、ぜいたくを規制するために、人情本（町人生活、とくに恋愛をえがいた女性向けの小説）や合巻（絵入りで大人向けの小説）の作者を処罰し、歌舞伎や寄席を取りしめる。また、豪華な服や手のこんだ料理などを禁止する。

#### 資料2 幕府の役人がまとめた法令集より

農村に住む者が、江戸へ出てきて住み慣れるにしたがい、故郷へ帰る気がなくなり、そのまま江戸の戸籍に加わる者が年々増加し、農村の人口が減っているとのことで、困ったことである。（荒井顕道『牧民金鑑』）

#### 資料3 老中 水野の命令その2

十組問屋はこれまで年額で1万2千両の税金を納めてきたが、問屋仲間に不正があると聞き及んだから、納める必要はない。もっとも以後、株仲間はもちろん、このほかすべて問屋の間で組合などを結成することも認めない。（『徳川禁令考』）

#### 資料4 老中 水野の命令その3

幕府直轄領にはやせた土地が多く、収穫と年貢率が劣り、……今回、江戸・大阪周辺の取りしまりのため、（江戸・大阪周辺の大名・旗本は）領地の返上を命じられた。（『徳川禁令考』）

#### 資料5 アヘン戦争の日本への影響

交易相手のオランダや清から海外の情報を得ていた幕府は、大国の清がイギリスに敗北したことに大きな衝撃を受け、異国船打払令をゆるめることにした。

資料1 『図説日本史通覧』p.192,196より筆者作成

資料2 兵庫教育大学 關浩和研究室ホームページ「關先生の日本史資料集」(<http://hiroeki.sakura.ne.jp/shiryousyu.html>)より筆者作成

資料3・4 『図説日本史通覧』「日本史重要史料207選」より筆者作成

資料5 『社会科 中学生の歴史』p.147本文より筆者作成

### 【活動3】 政策を原因と関連づける

活動2で列挙したおこな政策が「なぜ、実行されたのか」を問い、資料1～5からその原因とかかわりのあるものを選びます。資料の表題は内容にふれないようにつけ、内容を読んで関連づけられるようにします。

#### 天保の改革の政策と原因の関連づけ

- ①株仲間を解散させる→資料3
- ②出版を統制する、③ぜいたくを禁止する→資料1
- ④江戸に出ている農民を村に帰らせる→資料2
- ⑤江戸・大阪周辺の大名領などを幕領にする→資料4
- ⑥薪水給与令を出して外国（船）に対応する→資料5

### 【活動4】 政策のねらいと影響を類推する

次に、グループで政策のねらいを考察し、その影響を類推させます。例えば、③ぜいたくを禁止する（原因：資料1）では、「ぜいたくを禁止することで幕府を強化すること」が政策のねらいとなります。さらに「ぜいたく品を制限したらどうなるのか」と問うことで、政策の影響についての類推をうながし、妥当性を判断する材料とさせます。先の例でいえば、ぜいたく品を禁止することで、庶民にとっては「楽しみがうばわれる」、商人にとっては「物が売れなくなる（消費の縮小）」といった不都合が生じます。このように、類推をするにあたっては政

策の実行者（水野忠邦）の立場とは別の立場（庶民や商人など）からの考察が必要です。授業者は多角的な視点から影響を類推するようながすことがポイントになります。

### 【活動5】 状況をふまえて政策を判断する

一連の活動のしめくくりとして、原因や影響をふまえ、「天保の改革は妥当であったか、状況をふまえて考える」よう指示します。「状況をふまえる」とは、政策のねらいや原因、影響を総合して当時の状況を考えることです。例えば、「風紀を正すためだからといって、ぜいたくを厳しく禁止すると人々の生活は窮屈になり、商人ももうからなくなるので、反発されてしまうのではないか」などの意見が期待できます。

## 3 おわりに

政策を羅列し、その顛末を説明するにとどめず、グループ活動によって情報を整理し、考えさせる学習を組み入れることで、「事象相互のつながり」\*は発見しやすくなります。また、根拠にもとづき政策を評価することは、主権者教育にもつながっていくでしょう。

\*…『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』p.83